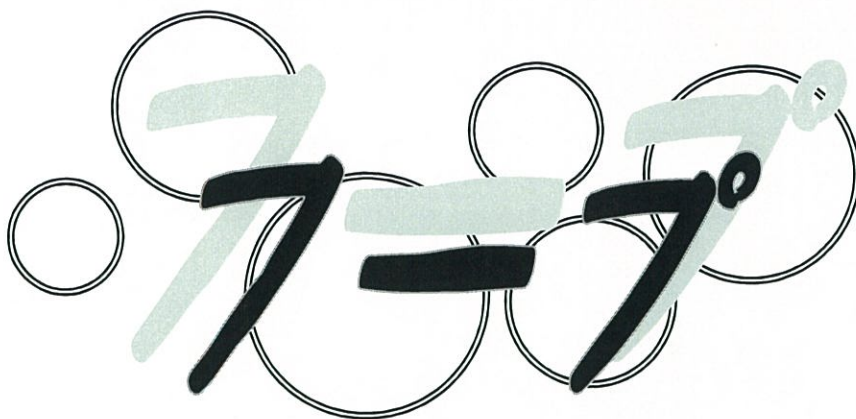


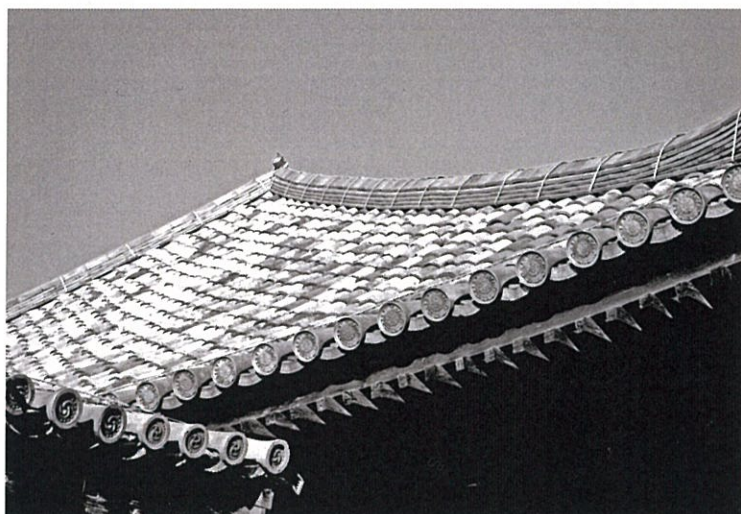


～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会

2015 年 冬号

第 80 号



元興寺極楽堂の屋根瓦

目 次

■ 2014 女性委員会アンケートの概要報告	本保 万貴子	1 ページ
■ 和室の話② ～～屋根～～	上田 壽子	3 ページ
■ 第 16 回奈良県景観調和デザイン賞報告	安田 千鶴代	4 ページ
■ 近畿建築士女性委員会フォーラムに参加して 「無垢材を使ったマンションリフォームの設計手法」	相河 真弓	5 ページ
■ UD 勉強部会講演会 「ダイバーシティ(多様性の尊重)と女性視点から見た 韓国の都市計画」	杉田 数代	6 ページ
■ 私と建築	前田 晴子	7 ページ
■ 今後の事業予定		8 ページ

2014 女性会員アンケートの概要報告

本保 万貴子



2014 年が瞬く間に過ぎ去り、2015 年になりました。昨年もお世話になりまして、お礼申し上げます。特に、夏に始めた女性会員アンケートでは、忙しい時にご返送いただき、ありがとうございました。また、無理を言って、わざわざ会ってくださった方々には、直接お話しできて、本当にありがたかったです。そして「遠いから委員長抜きで会っとくわ」と快く支部会員の面談とアンケート回収を引き受けてくださった高田支部担当の藤山委員、相河委員、樫原支部担当の安田委員。奈良支部の電話連絡を担当してくださった杉田副委員長、武市委員。天理支部をとりまとめてくださった庄田委員。皆様には本当にお世話になり大助かりでした。奈良士会女性陣のいざという時の凄さを改めて実感しました。

このアンケートは、女性会員の置かれている環境やどんな事業に関心があるか等を調査して、今後の女性委員会事業・活動の参考にしたいと実施しました。また、今まで女性委員会活動にほとんど参加されることがない方には直接お目にかかって、女性委員会活動について説明し、近況をお聞きしました。さらに、女性委員会活動の案内などの情報は、機関誌「士会奈良」と季刊誌「フープ」でお伝えしてきましたが、リアルタイムにすばやく伝えたいと、メールアドレスの提出をお願いしました。まだ、提出していただいていない方は、ぜひ事務局までご連絡ください。

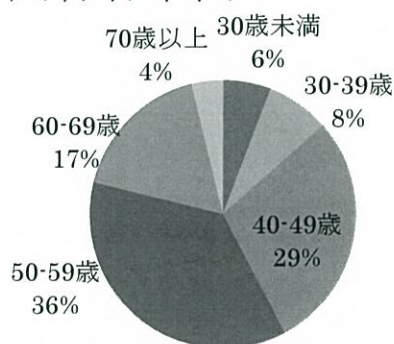
アンケートの結果は、データを表にしたものだけでも 11 頁になり、自由記入を入れると 20 頁近くなりますので、全体の詳細な報告は後日に回して、今回は一部のグラフをピックアップして報告します。

奈良県建築士会女性会員数は 84 人、全会員数 1,034 人に対して 8.12% です。

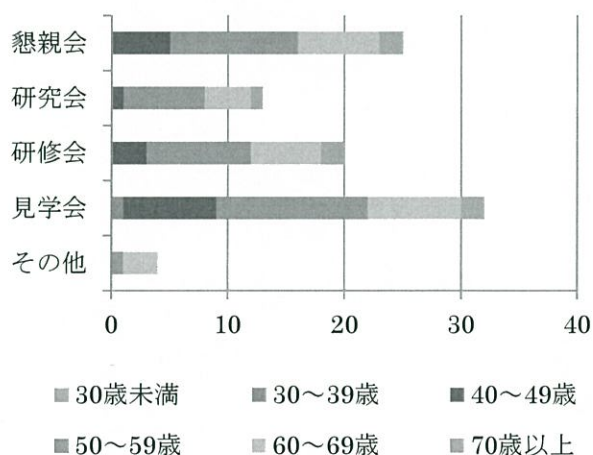
アンケート回答者の内訳

支部名	女性会員数	回答数	割合%
奈良支部	29	20	69.0
郡山支部	4	2	50.0
生駒支部	13	6	46.2
天理支部	4	3	75.0
桜井支部	2	1	50.0
樫原支部	9	7	77.8
高田支部	20	11	55.0
宇陀支部	2	0	0
五条支部	1	1	100
吉野支部	0	0	—
不明		1	
合 計	84	52	61.9

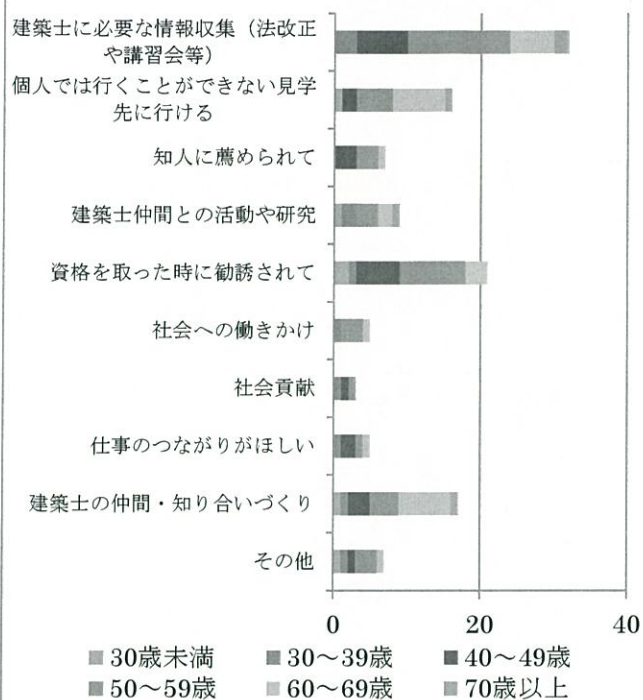
回答者年代



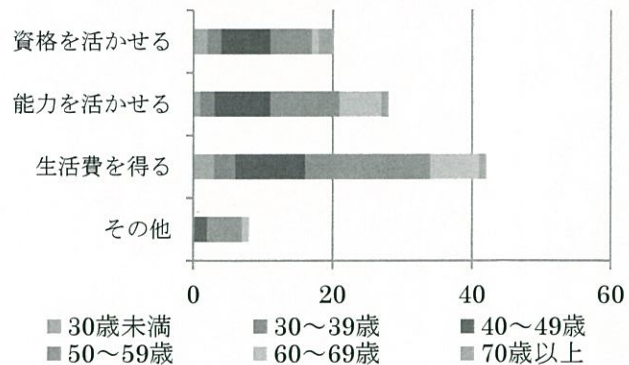
参加したことがある女性委員会事業



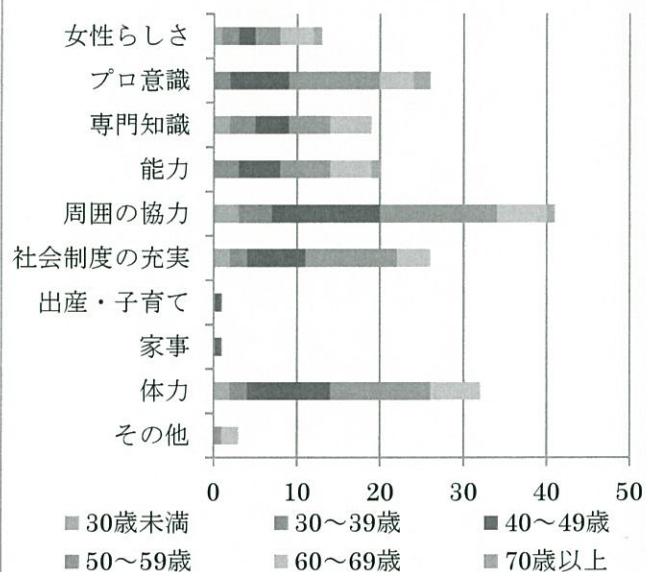
建築士会入会のきっかけ（複数回答）



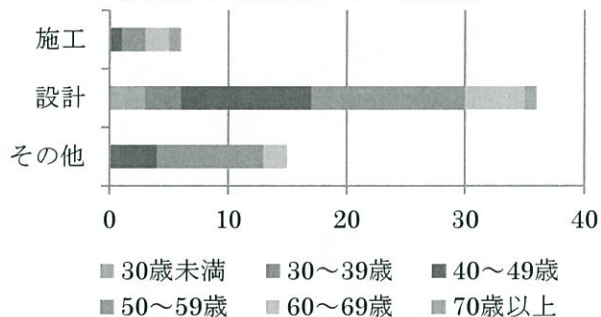
仕事をする理由（複数回答）



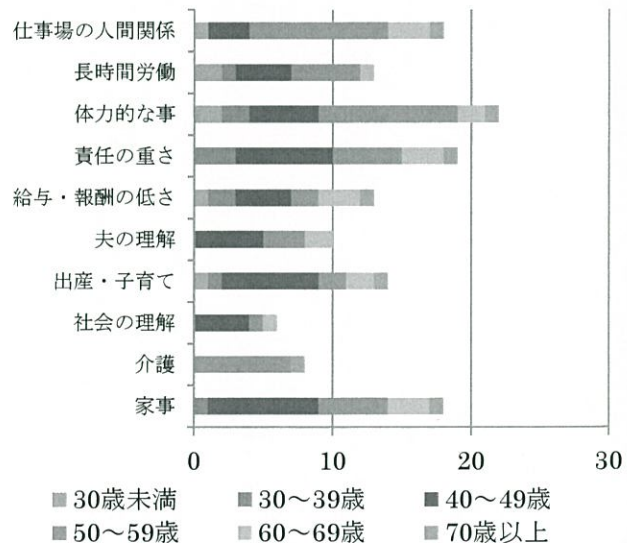
女性が仕事続ける上で必要なこと



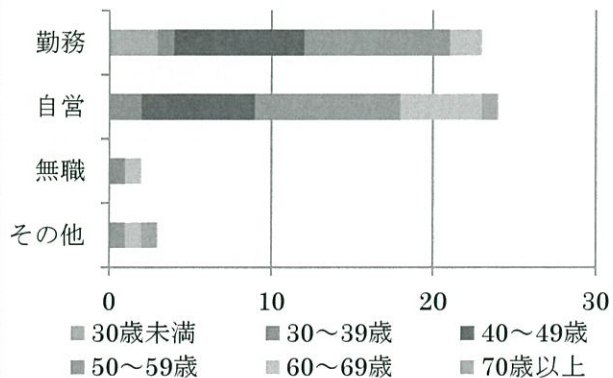
現在の職種と年代構成

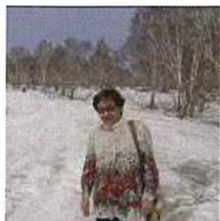


女性が仕事続ける上で大変だと思うこと



仕事形態（複数回答）





瓦は古く中国において用いられたものが朝鮮を経て日本に伝えられ、独自の発達をしたものが日本瓦です。最近では日本瓦葺きの住宅も少なくなってきました。奈良

で使う瓦はもちろん地元産もありますが、淡路産、三州産（三河）の瓦が多いです。

昔は土居葺き（とんとん葺き）の上に土を乗せ、その上に瓦を乗せたものが多く、それらは釘も使われず台風や地震でずり落ちたりする場合も多かったです。今は建設省告示 109 号により緊結方法も決まっておりますが、（建築基準法による方法は最低限・・・という意味です）引っ掛け棧瓦による工法がほとんどです。奈良地方では 64 判（ろくしばん）葺きが主で、時に（大工さんによって、また地域によっては）56 判（ごんろく）葺きというケースがあります。64、56 という数字は一坪当りに敷く瓦の枚数です。当然見た感じは違います。冠門や塀には 80 判などの小さな瓦が多く使われます。

軒先瓦も一般的には万十軒瓦が多く、一文字瓦やまた茶室などにはかま瓦もよく用いられます。お寺には本丸瓦葺きがよく使われ、用途によってまた価格によって違ってきます。

鬼瓦をどうするか（カエズ鬼か鬼面か家紋を入れるかなど）、熨斗瓦は何枚乗せるか、冠瓦（雁振瓦とも）はひも丸瓦か、ひもなし（素丸瓦）か、面戸は白漆喰かネズミ漆喰か、または面戸瓦か、設計をする場合にはそれらのことを詳しく書かないと建物の印象が大きく変わってきます。

屋根勾配も 4 寸以上でしょう。それ以下になると雨漏りよけの特別な瓦仕様になります。

瓦は焼成温度によって強度が異なります。奈良の平野部と山間部では使用する瓦も違います。山間部は特に雪害、凍結に注意です。

中国や山陰地方では石州瓦が多く用いられ、岡山県吹屋地区は「べんがらの里」として脚光を浴びています。レンガ色の屋根の町並みは壮観ですね。また内藤廣さん設計の島根 益田「グラントワ」では石州瓦が屋根をはじ

め壁や床に多く用いられ、風合いがすばらしいものです。建築材料の地産地消ですね。

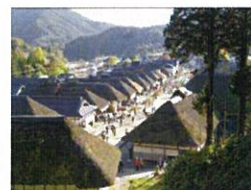
銅版葺きの屋根は、昔は末代物とも言われましたが、最近の酸性雨に見られる環境問題で、一生ものではなくなりました。谷樋にしてもほとんどステンレス製が用いられます。浅草 浅草寺の屋根は耐震的にも軽いチタンで葺き替えられました。

茅葺屋根は郷愁をそそりますが、現在その職人さんの数も少なくまた材料も手にはいりにくく、メンテナンスがとても難しくなりました。今年の全国大会で福島の大内宿を訪ねましたが、伝建地区の指定を受けてからはもとどおりの街道に近い姿に戻されつつあります。近畿では茅葺の里として京都美山地区が有名です。棟には火事を嫌うことから昔は「水」の文字や雲の絵を用いていました。また芝棟（くれぐし）と呼ばれる手法は棟に土を乗せて植物の根付きにより風雨から家を守る・・・ということで「あやめ」などを植えたものです。あやめは火（火伏）を嫌います。

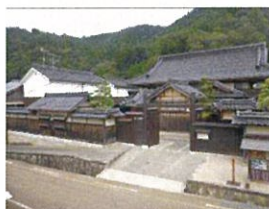
また火災よけとして「うだつ」もあります。昨年建築士会で尋ねた北国街道「海野宿」や四国「脇町」が有名ですね。（奈良大和棟の「うだつ」はちょっと違いますが・・・）



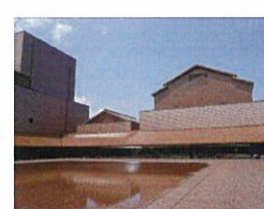
煙出しに水の字と雲模様



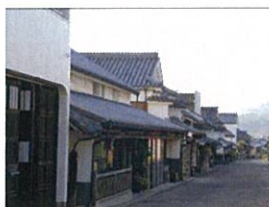
茅葺屋根の大内宿



因幡街道 黒瓦葺き



益田 グラントワ



脇町の卯立



海野宿の卯立

第16回奈良県景観調和デザイン賞報告

安田 千鶴代



平成26年11月29日、橿原市今井まちなみ交流センター華薨2階講堂で第16回奈良県景観調和デザイン賞の最終審査（一般公開）が開催されました。

今回、一般公募による72作品の中から1次審査で選ばれた10作品を2次審査（現地審査9件、ビデオ審査1件）後、以下の5作品が最終（3次）審査で選出されました。



・知事賞：今井町の家
・所在地 橿原市今井町



・会長賞：終の棲家
—奈良市帝塚山の家—
・所在地 奈良市帝塚山



・奨励賞：斑鳩の家
・所在地 生駒郡斑鳩町



・奨励賞：十津川村復興公営住宅
・所在地 吉野郡十津川村
大字谷瀬地区・大字猿谷地区



・審査委員長賞 御所の古民家（減築・改修）
・所在地 御所市名柄

※以上、評価の詳細は、士会奈良1月号VOL482を参照下さい。

審査委員の先生方から、「今回の公募作品には公共建物が少なく、その他は一般住宅が占めている。今般の経済情勢によるものと思われるが残念な思いがある。公開審査としてこの場に参加されている中には、設計された方の参加があると思いますが、審査についての基準は何か？ベーシックなコードに合わせたデザインコードがあればそのコードに合わせて選べばよいがコードがずれるとバラバラになる。景観・調和・デザインこの3つのキーワードを考えた上で、どのように纏めれば良いのか？」という意見がありました。審査委員長吉村篤一氏は、「景観に憧憬の深いオギュスタン・ペルクの言葉として、建物は、空から落ちてくるのではなく、地面から立ち上がってくるもので有り、自然の秩序の中にある。自然の中にある物で地域の秩序を乱さない物は良い。新しいデザインでも地域の秩序を乱さない物も有り、今までのデザインに習ったものでも秩序を乱すものはダメだということです。」と述べられました。

また、他の意見として、「審査対象としてむづかしいのは最初から優れている物（文化財・伝建等）のリノベーションと、放っておくとどうにもならない建築？に関わった結果として現在の生活と景観がこんなに良くなった。この落差についての所有者や設計者の行為や工夫を評価することが、今後の奈良全体の景観を引き上げるのではないのだろうか。それを同じ土俵で評価すると結果として前者が優っているのは分かりきっていることであり、この行為自体を評価することが大事ではないだろうか。デザイン賞は、建築賞ではなく奈良にあつての景観



審査風景：今井町華薨会場



審査委員長 吉村篤一先生

調和をどう考えているか、場所性をどう捉えているか、精神性について評価するものだと考えられる。」等がありました。

審査は、投票形式で行われたが、一票の重みを考える上から、点数が多いから優っていると云うのでは無く、審査員各位が何に対して評価し、結果どの作品を1番として押しているかが発表され、それに対しての応援及び反対弁論の結果、受賞作品が決定しました。

近畿建築士女性委員会フォーラムに参加して
「無垢材を使った

マンションリフォームの設計手法」

相河真弓



11月1日、TOTOテクニカルセンター大阪にて講師に小谷和也氏（マスタープランナー級建築士事務所）をお迎えして「無垢材を使ったマンションリ

フォームの設計手法」～国産材の木のマンションリノベーション～が開催されました。



講師の小谷氏は、2009年よりマンションリノベーションの設計に特化され、そのリノベーションの特徴は下記になります。

- ① 中古マンションのスケルトンリノベーション
- ② 床板や家具は国産材、その他自然素材を使用
- ③ 設計、素材は標準化 同じスタイルを貫く
- ④ 断熱性能を高めカビと結露を防ぎ光熱費を削減
- ⑤ 無垢床＋乾式二重床で遮音性能を確保する
- ⑥ 通風、採光、家事動線確保 プランニング重視
- ⑦ 照明計画、家具、植物に至るまで提案

マンションリノベーションを行うにあたり、まず注意すべきことは管理組合の「管理規約」の確認をきちんと行うこと。そして、床から階下へ伝わる「音」の問題をどうするかということです。この床材の遮音性能はこれまでLL-45やLH-50などで表示されていましたが、2008年よりJIS規格が厳しくなり、表示方法もΔLL-4等級などの新規格になりました。小谷氏はご自身で新しい方法による床材の遮音試験を

行い、実際にカタログに示されている数値が出ているかを確認されたり、無垢材を様々な工法で試験しデーターを取り、その結果、「乾式二重床しかない」という結論に至ったとお話しされました。

又、一般にマンションの問題点として、北側の「カビ」が挙げられると思います。マンションでは限なく風通しを良くすることは難しく、南側に比べて北側の部屋や押入れの壁はどうしても結露が発生しやすいからです。その対策として断熱性能を高めることが重要であり、その断熱改修方法もご説明されました。

- ① 壁面、窓面、でのカビ対策。熱損失をなくす
- ② 住戸位置の差を解消(角部屋・一階・最上階)
- ③ 杉床プラス断熱改修で床暖房をなくせる



小谷氏は「木の家」に住みたいと思っても価格の問題で無理な場合がある ⇒ 戸建てじゃないと木の家に住めないのか？ ⇒ マンションで木の家は作れないのか？ ⇒ マンションならではの設計手法と素材選択で可能になるのではないかと、この思いから木のマンションリノベーションを始められたそうです。私自身、設計の仕事に携わり25年になりますが、少しでも多くの人に無垢の木の魅力を伝えられないか模索しながら、ここまで活動してきました。正しい設計、施工方法により、マンションリノベーションの際に無垢の木は様々な方が選択可能な素材となり、その良さを暮らしに取り入れられます。小谷氏がご自身で模索しながら設計手法を確立されたその姿勢に感銘を受けましたし、刺激を受けました。これからの更なるご活躍を楽しみにしております。

UD勉強部会講演会

「ダイバーシティ（多様性の尊重）と
女性の視点から見た韓国の都市計画」
杉田 数代



平成26年11月6日（木曜日）18：30から建築士会館1階会議室にてユニバーサルデザイン部会の講演会が、講師「趙玫姫（チョウ ミンジョン）氏：

大阪府立大学工業高等専門学校総合工学システム学科都市環境コース講師」をお迎えして行われました。

講演内容は「ダイバーシティ（多様性の尊重）と女性の視点から見た韓国の都市計画」。初めに自己紹介があり講演に。視覚障がい者と女性に着目しての話があり、障がい者の歩行特性として単独歩行は誘導歩行時に比べ大きくストレスがかかり、横断歩行時に精神的ストレスがあるとのこと。私は町の中で単独歩行されている視覚障がいの方々をよく見かけますが、さりげなくストレスなく歩行されているように見受けられます。ストレスを抱えての行動だと知って、今更ながら考えさせられました。

さらに空間認知・経路探索の現状へと話が続き、メンタルマップ（頭の中の地図）描きでは、匂いと音により空間を認知し位置を把握していて、湾曲の経路や斜めの道は真っ直ぐの道と誤認しやすく、曲がり度や曲り道は認識しにくいとのこと。私の会社のある北区西天満周辺の誘導ブロックは湾曲や斜めに設置されている箇所があり、何時もこれで大丈夫なのかなあと思いながら毎日歩いております。時折、自転車で誘導ブロックの上を通行している方々を見かけますが、視覚障がい者の方にとっては通行しにくそうです。

続いて、バリアフリー環境整備に関する現状と課題についてのお話になり、視覚障がい者の外出の状況からみてバリアフリー環境整備が必ずしも万全とは言えない、視覚障がい者の障がい特性や地域特性を考慮したバリアフリー環境整備の計画・デザインの新たな捉え方と活用方法が必要との話の後、パワーポイントを使って「ハード面の現状」、「備品によ

る対応」、「ソフト面の現状：人的対応」について説明されました。映像は理解しやすく感じました。

限られた時間の中、盛りだくさんの内容でした。

講演会の後、講師の方を囲んでの懇談会では、許された時間ぎりぎりまで、参加者からの質問が相次ぎ、また、いろいろな話が出来て有意義な時を過ごすことができました。

今回のお話を聞いて、視覚障がいの方々は「鼻・耳」などの五感を全開で鋭く働かされていて、もしかしたら六感もフルに働かされているのかもしれないと感じました。今の私に何ができるか分かりませんがお役に立てる事があればと思いました。

和室研究部会より勉強会のお知らせ

“今に生きる日本の住まいの知恵”。

気候・風土・文化に根差した日本の住まいの基本についての勉強会を開催します。どなたでもご参加いただけますので、参加希望の方は2月10日までに士会事務局へFAXでお申し込みください。

(FAX：0742-33-4333)

・日時：2月17日（火）

18：30～20：30

・場所：建築士会館会議室





はじめに…、私は「建築」と言える程皆様のようにバリバリと建築士の仕事はしておりませんし、また技量もないので、このシリーズに寄稿するのは大変

恥ずかしいのですが、「建築」に興味を持ったきっかけや近況等を綴ってみようと思います。

私は兵庫県伊丹市で生まれ育ちました。現存する実家は伊丹市都市景観形成道路旧大阪道沿いにあり、大河ドラマでもあった荒木村重の有岡城の近くで、昔の町名は外城町（とじょうちょう）と言い、実家も含めご近所には江戸時代頃からの古い家がぽつぽつとあります。

実家は約45年程前にあまりにも不便なので台所等の改修工事をしましたが、それまでは天井には大きな梁、土間にへっついさんのある生活でした。亡父は“家”というものをとても大切にする人で、「敷居は踏むな」「畳の目にそって掃除機をかけろ」等釘一本打つのにも父の許可がいる程、家で暮らす人＝家族の快適性よりも家が大事大事という人。今思えば異常ですね。私はそんな古い家からアーメンの学校に通学し、私の中には古い和の文化と洋のハイカラ文化が入りました。

天窓からの柔らかい日差し、熱い夏には縁の下から土間にさあ〜とひんやりした風がぬけ、縁側から庭の四季を眺めたり、明るさと陰影の美しさ等々、マンション生活になった現在それらが大好きであった事を毎日再認識しています。

小学生の頃、3姉妹の末っ子であった私は、自分の机の上に“おやつ置き”を組立てたのを覚えています。

組立部材は、アイスクリームの棒状、はめ込み式、で四角く色々な形が作れました。

机は姉のお下がりをもが神戸の輸入雑貨店で買ったシールを机に貼り、リニューアルしてくれました。何分3姉妹同じ部屋、又どの部屋も解放的な和室の為、何か工夫をして無意識に“自分の陣地”を確保

していたのかもしれません。中学生になり、当時よく読んでいた雑誌 anan にあったお気に入りのインテリアや雑貨等の写真を下敷きに挟み、家を勝手にさわれない代わりに仮想空間を楽しんでいました。高校、短大（建築とは無関係）と進み、旅行会社に就職しました。20代の頃からインテリアや住宅に興味があり、特に住宅の本は数冊購読し保存していました。

30代初めに旅行会社を退職し、数か月のんびりしていた時、住宅への思いがむくむくと湧いてきました。偶然にも新聞広告でMホームの求人を見つけ運よくモデルハウスに勤務できました。勤務しながらインテリアの資格を取得し、次に「壁の中はどうなっているのだろう」ともっと勉強したくなり、これまた運よく出入りしていた設計事務所に「勉強したいならおいで」と呼んで頂き、そこで働く事になりました。ハウスメーカーの仕事の他、一般住宅、共同住宅、スーパー、測量や確認申請等、本当にど素人でしたが、厳しく根気よく指導して頂きました。

初めての役所回りでは鼻で笑われ、「見合いでもして結婚したら」と役所の人に言われ、今で言う立派なセクハラですね。その後専業主婦、子育てと建築業界からは離れてしまった間は建築関係セミナー等に参加し、数年経てやっと建築業界に戻ることができました。現在は工務店に勤務しています。ただ現在の大きな悩みは、社内に建築士は私一人で、基準法に関して等の相談をできる人がいない事です。セミナーや講習会、挙句の果ては直接連絡して「助けて〜」と諸先輩方々に教えて頂いてます。

この場をお借りし大変感謝お礼申し上げます。

こんな私ですが、目の前のことを一つずつやって行こう、やれる所までやってみよう、の心境です。そして最近徐々に興味が増してきたのが「町家」です。光と蔭と四季の移ろいと、家に入ったら「ほっとするきもち」がたまらないのです。



今後の事業予定

- 2月6日（金）～7日（土）
全国まちづくり委員長会議
- 2月18日（水）
耐震LaZo工法登録者講習会
（奈良県建築士会館）
- 2月22日（日）
文化財建造物専門家スキルアップ講習会
第6回（予定）
- 2月25日（水）
第4期一級・二級・木造建築士定期講習
（春日野荘）
- 2月25日（水） 住宅相談会（奈良県建築士会館）
- 2月27日（金）～28日（土）
女性委員会 全国女性委員長会議及び第24回
全国女性建築士連絡協議会
（東京：建築会館ホール）
- 2月28日（土）～3月1日（日）
青年委員会 奈良の森と木と家のフェスタ出展
（橿原イオンモール アルル）
- 3月7日（土）～8日（日）
平成26年度全国青年委員長会議
- 3月未定 青年委員会 見学バスツアー（予定）
- 3月14日（土）
近畿建築士会協議会青年部会 京都会議
- 3月19日（木） 理事会
- 3月21日（土） 女性委員会 1日見学会（予定）
- 3月25日（水） 住宅相談会（奈良県建築士会館）
- 4月22日（水） 住宅相談会（奈良県建築士会館）
- 4月23日（木） 理事会
- 5月中旬 定時総会

女性委員会見学会のお知らせ

今年度の見学会の行先は日本民家集落博物館（豊中市）と竹中大工道具館（神戸市）です。（どちらも学芸員さんによる案内付。）昼食は香港広東料理の女性用ミニコースです。

・日時：3月21日（土・祝）

近鉄奈良駅8時半集合～17時解散予定
（バスツアーです。）

・参加費：3000円（予定）

申し込み方法等詳細については士会奈良3月号にチラシを同封しますので、是非ともご予約ください！



日本民家集落博物館

編集後記

2015年となり早くも1カ月が過ぎました。皆様、今年もフープをよろしくお願い致します。

昨年行われた女性会員アンケートの概要報告では、女性会員の皆様の状況や意識がわかりやすくまとめられており、自分自身と照らし合わせて見つめ直す良い材料となりました。様々な悩みを抱えながらも日々奮闘し、向上心を持ち続けることが大切だと改めて思いました。

今年も女性委員会では、見学会や勉強会など幅広い活動が予定されており楽しみです。皆様もぜひご参加くださいませ。

（渡邊 有佳子）
